

## 【小川村】 1人1台端末の利活用に係る計画

項目	内容	※留意事項
①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指すため、児童生徒一人一人の興味関心や実態に応じて、意欲を高める学びの提供や個別最適な学習速度に合わせた指導の充実を図る。また近隣の学校との遠隔授業や交流を通じて、新しい知識や情報に触れる環境づくりを推進する。	・学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）等の内容並びにこれらに引き続き政府の議論も踏まえ、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて実現を目指す学びの姿を記載する。
②GIGA第1期の総括	第1期GIGAスクール構想では、一人一台端末や校内ネットワーク環境の整備を行い、ICTを活用したデジタル教材や学習用デジタル教科書などを導入して環境の充実を図った。特に中学校は文科省指定のリーディングDXスクール事業の指定校として、クラウドを活用した教員の働き方改革につなげる取り組みや協力校とのオンライン合同授業を通じて、校務DXの推進と主体的対話的で深い学びを実現できた。	・①も念頭に、令和5年度までの間にGIGAスクール構想の実現に向けて実施してきた端末と通信ネットワークの整備や、これらを活用した学びの実践のための取組等の総括を行い、その結果を記載するとともに、明らかになった課題については、その解決策とともに記載する。
③1人1台端末の利活用方策	<p>【1人1台端末の活用】 現在中学校では「情報の時間」を総合的な学習の時間に設け、情報活用能力だけでなく、スキルアップの時間として各学年で実施しているが、今後は小学校でも取り入れていく。 小中一貫したカリキュラムにより、発達段階に合わせて学習し、無理なく確実に情報活用能力を身に付けていく。</p> <p>【個別最適・協働的な学びの一体的な充実】 生徒一人一人が自分のペース・方法で学び、必要な時に協働して学びを深めることができるよう学習環境を整える。 既に導入しているデジタル教材や学習用デジタル教科書の活用のほか、生成型AIを用いて生徒の学習意欲を高め、より深い理解を促す様々な活用方法を学んでいく。</p> <p>【学びの保障（臨時休業等の緊急時・不登校対策・特別支援教育・外国人児童生徒）】 不登校傾向の児童生徒には、場所を選ばず学べる環境を提供する。（例：特別支援学級・校内教育支援センター・自宅等） 特別な支援が必要な場合は、デジタル教科書や音声教材を活用し、児童生徒が学びやすい環境を整える。</p>	・①及び②を踏まえ、端末の利活用方策を記載する。その際、1人1台端末の活用、個別最適・協働的な学びの一体的な充実、学びの保障の視点に触れて方策を記入する。 端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することを明記する。

※この計画は「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」の15ページを参考に作成。